

令和3年度第1回少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組研究会 会議録

開催日時	令和3年9月28日(金) 午後6時30分～午後8時15分
開催場所	飯田文化会館1階展示室2,3
出席者	<p>座長:代田昭久教育長 副座長:後藤正幸</p> <p>研究会委員:木下潤児、斉藤辰幸、島崎誠、酒井正也、鈴木紳也、林克義、大場孝、安田完爾、熊谷兼富、宮下博、渡邊義昭、伏木久始(リモート)、坂野慎二(リモート)、北澤正光 (欠席者)なし (敬称略)</p> <p>事務局:松下徹教育委員会参与、桑原隆学校教育課長、湯本正芳学校教育専門幹、塩澤裕美子教育指導専門主査、山浦貞一教育支援指導主事、櫻井英人課長補佐兼総務係長、竹村公彦課長補佐兼教育企画担当主幹、上沼昭彦課長補佐兼学務係長、仲田好寿保健給食係長、上柳智広児童クラブ担当専門主査、熊谷一彦学校施設係長、小澤亮公学校施設係 (欠席者) 麦島隆教育指導専門主査、小木曾雄亮教育指導専門主査</p>
配布資料	<p>1. 次第、1学期学校運営協議会での意見交換のまとめ</p> <p>2. 令和3年度1学期学校運営協議会資料</p> <p>3. 第3回研究会会議録</p>
記録者	事務局竹村
<p>会議録</p> <p>1. 開会(事務局 以下5まで進行)</p> <p>2. 委嘱状の交付(机上に配布)</p> <p>3. 座長あいさつ</p> <p>研究会の趣旨と経緯をお話しさせていただくと、飯田市の学校の課題として児童生徒の少人数化と校舎の老朽化がある。こういう中でこれからの飯田市の子どもたちをどのように育てていったら良いかをしっかり考えるということでこの研究会を立ち上げた。1学期は全ての学校運営協議会で、まず飯田市の現状を理解いただくよう説明させていただいた。出席してみて私は、飯田という地域の皆さんの学校に対する熱い思いを肌で感じることができてとても良かったと思う。また、少子化・老朽化が進む中で学校の配置や枠組みを考えなければならないという意見も出た。教育委員会で案を出すべきだという意見も出た。これについては教育委員会としては先に案を出すよりも、まずはじっくりと皆さんと飯田市の将来を考えていきたいと思っている。</p> <p>研究会の設置要綱では、第2条に「…進め方等について協議する」とある。この研究会では個別の学校の統合などについて話し合うのではなく、今年度の下半期や来年度どのようにやっていったらいいのかのご意見をいただきたいと思っている。</p> <p>4. 委員自己紹介</p> <p>5. 研究会会議録の内容確認・公開について</p> <p>第3回研究会会議録については令和2年度の委員の皆様を確認いただいているので、市ホームページに公開していきたい。また、今回の会議録についても同様に取り扱いしていきたい。(→会議録に修正等なし)</p> <p>6. 報告・説明事項(以下7まで座長進行)</p> <p>(1)令和2年度からの経過(説明者:事務局) 資料 p4,5 を説明</p> <p>(2)令和3年度1学期の学校運営協議会での意見交換について(説明者:事務局) 資料 p7～24 を説明</p> <p>7. 協議事項</p> <p>(1)今後の進め方について</p>	

①令和3年度2学期意見交換の進め方(説明者:事務局) 資料 p25～29 を説明

②令和 4,5 年度の進め方(ロードマップ) (説明者:事務局) 資料 p30 を説明

(座長)今年度2学期の進め方についてご意見をいただきたい。

(委員1)学校運営協議会で出た意見の中で、保護者へも説明が必要だとある。P31 の配布資料はロードマップでいくと今年度 10 月に配布するようになっているが、配布するだけなのか。先ほどの説明によると2学期の意見交換では保護者の代表のような方も出席する学校も出てくるようだが、保護者へはどのように説明していくのか。

(事務局)p31 は各家庭へ配布する資料。学校によっては学校運営協議会だけでなく保護者などに対象を広げていきたいという学校があるので、どこまで広げるかや、進め方については事前に協議したい。

(事務局)令和3年度については学校運営教委議会でしっかり意見を聞くステージにしたい。対象の拡大については令和4年度としたい。

(委員2)p31 の配布資料はどのような方法で各家庭に届くのか。

(事務局)学校を通じて配布することを想定している。

(委員3)学校に来れば通常書類と同じように子どもたちに持たせる。

(座長)配布資料については「7. 協議事項(2)各家庭に配布する資料について」で説明するつもりだったので、ここで事務局から説明をお願いします。

(2)各家庭に配布する資料について(説明者:事務局) 資料 p31,32 を説明

(座長)保護者の立場から委員4いかがでしょうか。

(委員4)学校から子どもたちへ渡す時に「大事なことからお父さんお母さんに渡してください」と言うくらいはできると思う。

(委員5)率直に言ってこの資料を見た時に保護者の皆さんはあまり読まないのではないかと。内容は良いが文字が多すぎると思う。前段にもう少しわかりやすいものと一緒なら良いと思う。

(委員6)学校を通じて保護者へ配るということだが、一般の家庭へ配る予定はないのか。学校関係のみで地域への配布はないのか。

(事務局)今の段階では学校を通じて保護者ということだが、地域の課題でもあるので広げていく方向で考えなければならぬと思う。

(委員6)第1回の意見交換があった時に、校舎の建替えや少子化の話ばかりで将来子どもたちを地域でどのように育てるかという話まで行っていない。ざっくばらんに意見を出してくださいと言われて、脈絡のないいろんな意見が出た。その意見を事務局で拾い上げているが、これは地域の意見ではない。また、再編のように相手のことまで学校運営協議会で話をしているのか。上郷は合併の時に別府は浜井場小だという話があったが、それに似た話を学校運営協議会に持ち込むのはいかがなものか。そんな大きな問題を学校運営協議会だけで議論するのは適切ではないと思う。子どものいない家庭は蚊帳の外ということよろしいか。

(事務局)そう決めているわけではない。大きな課題であるので地域も含めて考えていくべきだと思う。

(委員6)学校運営協議会は限られた人数が出てきているだけなので、まちづくり委員会できちんと話し合おうとしたが、あまりにも子供の減少数が衝撃的で一般のまちづくりの皆さんには出していない。

(事務局)意見交換はまだ1回だけで、この1回で結論をどうもって行くかとは考えていない。何回も地域の皆さんと話し合いを重ねるべきと思っている。

(委員6)このことをまちづくり委員会へ出していてもよろしいか。

(事務局)充分あり得ると思う。

(座長)学校運営協議会で学校の配置について、最後まで議論することは我々も適切ではないと思っている。

今集まっている委員はそこまでのテーマで集まっているわけではないからだ。今年度は学校運営に携わってくれている学校運営協議会の皆さんに知ってもらおう年だと思っている。1年目として一義的に学校運営協議会の皆さんに説明することは意味があると考えている。来年度以降まちづくり委員会で協議することを妨げるものではないし、具体的には遠山では1500委員会を作って議論を始めている。

(委員7)資料を配った後のことも考えておかないといけない。委員が言ったようにまちづくりが関わって意見集約することもあるだろうが、一般の地域からの声をどのようにまとめていくかを考えていくべきだ。

(委員8)この研究会のミッションが、教育環境の充実に向けた取組の進め方であれば、少子人口減少の局面において、学校という閉じられた空間で議論するものではなくなってきた。地域と学校との共存的な教育環境づくりを考えざるを得ない。家庭に配布する資料について、子どものいない家庭にも配るべきだという意見が出されたが、私も賛成だ。どうすれば情報がきちんと伝わるか。私の案では3~5分程度の動画を作るべきだと思う。飯田市の子どもの数はどうなっていて、校舎も50年を超えている、こんなタイミングだけど夢のある飯田の教育をみんなで考えようというメッセージの伝わるようなイメージ動画をアップすれば、コンパクトに伝わると思う。もっと良いのはそういう動画を見るのは大人だけでなく、中高生もみられることだ。私は前回保育園の保護者にもこの議論を出してほしいと言ったが、これからこの地で主体的に頑張っていく人たちにも情報を伝えて意見を言える仕組みを考えたいほうが良いのではないかと思う。

教育環境に関しては、子どもの数に合わせて学校の数をどうするかということに矮小化されがちだが、文科省の教育環境のあり方の検討会では、2学級で3教室使う、特別な子どもにも学びやすい教室など学校の空間を今までの発想になかった多様な学びの空間へと検討が始まっている。そういうことを考えるとまちづくりの皆さんも少し広い視野から一緒に考えていくことだろうと思う。

校内の環境は、従来のように机椅子はこう並んでいる、廊下はこうあるものだと考えがちだが、今シフトチェンジする時代に入りかかっている。このタイミングをプラスに考え、皆でユニークな飯田の教育環境を考えるというモードに仕向けていくことも必要だろうと思う。

(委員9)p31の家庭に配布する資料について、ボリュームが多すぎるという話があったが、2次元バーコードを付けてリンク先の資料に飛ぶようにすれば良いと思う。そうすれば保護者に限定しないで他の人に見てもらいやすくなると思う。今年度は学校運営協議会である程度の方向性が見えれば良いくらいの枠組みだと思うが、この後地域をどう考えるか、地域でいろいろ活動している人たちをどう巻き込んでいくかは地区によって異なると思う。早く取り組むべき地区は、今年度学校運営協議会が主催して進めてもいいだろうし、話がまとまらないところは、次年度以降に他の地区と情報交換しながら進めていくと良いと思う。今こういうことが問題になっているということを知ってもらおう事を今年度進められれば良いと思う。

(委員10)正直ピンとこない。先に中学校や小学校のPTAの方の意見を聞きたい。

(委員11)飯田市全体の資料よりも、住んでいる地区の資料であれば気になって見るかもしれない。地区ごとに課題やタイムリミットが違うので、例えば東野地区なら何年後にはこうなるので、それまでに方向性は出しておかなければいけないという書き方ならば、読むほうも考えないといけないという気持ちになる。幼稚園ではアパート暮らしをしている人が多いので、小学校を見て住むところを決める人もいる。学校の魅力や課題が分かれば住むところを決める選択肢にもなるので、そういうものがあったとしても良いと思う。

(委員8)いま、保育園の親に聞かれてもまだ分からないというお話があったが、この議論は来年決まるという話ではない。早くて5,6年、実現してくるのは10年単位で考えないといけない。そうすると中学生の保護者は利害関係から離れる。先生方も同様ということになってしまう。そうならないようにみんなで関わるようにする。自分の声が行政に届く仕組みを一緒に考える。そのためには広く情報が入ってくる必要がある。私がか関わった自治体では、むしろ保育園の保護者向けの説明会をかなり重ねた。現在の当事者よりもこれから

飯田で生活していこうという人たちの声を大事にした方が良いと思う。

(座長)今の議論を私なりに整理すると、資料の配布の方法、内容、配布先等についてももう一度検討してほしいということだと思う。具体的には、内容を分かりやすくすること、QRコードを付けること、動画を作成することで、今年度の目標である「理解を進める」ための工夫をすべきという事だったと思う。飯田市の課題として皆を巻き込んでいけるような2学期の意見交換の進め方であるべきだという示唆をいただいたと思う。

(委員2)p30のロードマップで学校運営協議会の①が終わって②が始まる。①は多様で脈絡のない意見が出てきたが、飯田市の抱える課題を運営協議会では共有できた。②では自分の校区で何が問題かを運営協議会自体が地域に投げかけたりしていく。そういう動きになっていかないか。学校運営協議会が単なる協議をする一機関になってしまっているとしたら、誰が主体的にこの問題を地域を巻き込んで考えていくのか。学校運営協議会が主体的に進められないか、皆さんの意見を聞いてみたい。

(委員12)地区で話をするとすると、当然統合という話が出てきてしまう。50年経った校舎を全部直すわけにいかないから当然1つにという話になる。子どもが少ない中でやるのも良いが、クラブ活動ができなくなるなど、子どもたちにとって本当に良いことなのかも考えてあげなくてはならない。きれいごとだけでは進んでいかない。教育委員会から今後どうするかの話が出てこない、地域で話ができない。

(委員2)おっしゃることは分かるし、同様の意見は他からも出ている。だが、この問題をどうしたら地域の問題にできるか。これまでの発想から抜け出ないと難しい問題であると感じている。学校の運営に対して一番大事な学校運営協議会がどのように①②を進めていくかが極めて重要だと考えている。中学校区によって課題はまるで違う。校区の問題意識に対して何をしなければならぬか、学校運営協議会が主体的になれないものかと思っている。

(事務局)学校の配置や枠組みよりも、地域、家庭とともに特色ある学校づくりをどうしていくかという意見をいただいている学校が多くある。この軸をずっと持ち続けることが基本になる。状況が変化する中で、学校の特色を追求したときにどういう学びの環境が良いのかという議論になっていくのだろうと思う。だからある校区では配置・枠組みよりも特色づくりに入っていくだろうし、児童生徒が減少していく学区では特色と枠組みを合わせて検討していくことになると思う。これは学区ごとに分かれていくことになる。教育委員会としては今年度2回の意見交換をもとに教育委員会としての検討材料を令和4年度の初めに提示していきたい。令和3年度は学校運営協議会でのステージだが、令和4年度はもっと広い住民の皆さんの意見をいただくことになると思う。例示としては地区の懇談会をあげてあるが、懇談会の軸もどういう特色を持った学校づくりをしていくのかということになる。令和5年度については今の段階で見通すのは難しいので、4年度までの動きを見て研究会での意見を聞きながら決めていきたい。

(委員13)飯田市としてこういう方向性で議論してほしいというものをもう少しはっきり出してほしい。それがなくて地域を代表する者と保護者やほかの皆さんとのギャップが埋められない。コミュニティスクールに関わってきて思うのは、コミュニティスクールでの議論と保護者や地域との温度差がある。コミュニティスクールで子どもは地域の宝だという議論をしても、学校を通じて保護者にどれだけ伝わっているのか。まちづくりが学校から要請されることに対してどれだけ共同作業できるのか。

(委員14)飯田市と合併してから上村は若い世代が流出してしまっている。それで少子化が問題になっている。

P31の配布資料はこういう会に出れば見るが、初めての人には難しいかなと思う。

(3)研究会委員の任期について(説明者:事務局)

今回この会に初めて出席しているのは16名中10名。課題の継続性から令和4年度も今年度の委員の皆さんにお願いしたい。

(座長)充て職の委員もおられるので、個別に相談させていただきたい。

(委員 15)先ほど学校運営協議会がこの課題の中核となってリードしていくかという問いかけがあったが、前回の鼎での意見交換でこんな話があった。「校舎の建て替えが必要ならば鼎は小中で1つという考え方はある。また公民館との複合施設も検討する。」「自治振興センター、公民館、防災センター、図書館などを統合した施設整備を市へ要望している。」非常に壮大な話になる。学校の関係者だけで話し合っている状況ではない。市のいろんな部局が関わってくるし、ゆくゆくはまちづくり委員会が主導していくことになると思う。学校運営協議会で理想を話し合っても、そんなことできるわけないでしょということになる。そうなるまちづくり委員会の中に学校のあるべき姿を徐々に模索していく担当部局が必要だと思う。もちろん問題意識は広く地域で持つべきだ。だが責任をもってこの問題を進めていく部局は必要だと思う。学校運営協議会はどんどん人が変わっていく。その中で一貫して継続した議論ができるのかということもあると思う。

(委員8)今日いろいろ議論になった配布資料は、ここに至るまで相当事務局が苦労していることも私は理解している。この歩みを止めず、これはこれで配っていく。坂野委員が言うように QR コードをつけていろんな人が見るようになれば理想だと思う。ただ言うのはやさしいが実際にやるのは大変だ。それくらい大変なことをやろうとしている時期なんだと思う。配布資料は止めずに配る方向で、そして多くの人にもっと情報が伝わる方法を常に考えていく。やらない理由ではなくてどうすればできるかを考えていきましょう。事務局の皆さんご苦労様です。

(委員9)厳しい選択を考えるプロセスだが、変革の今だからこそ夢を議論するための時間でもあることを意識してもらいたい。そういう議論が学校運営協議会や地区できると良いと思う。

(座長)今日は委員の皆さんから様々な意見をいただいた。ただ、これまで事務局でも良かれと思って議論を積み上げてきた部分もある。今日の見解は持ち帰らせていただき進めていきたいと思う。次の研究会は年度末の予定だが、必要であればそれまでにもう1度開催しご意見をいただくかもしれない。そんな含みも持たせていただきたい。飯田市を良くするための夢のある議論をしていきたいと思うので、よろしくお願いします。

8. 次回開催案内(事務局)

年度末の予定であるが、期日が決まったら連絡する。

9. 閉会あいさつ

(副座長)1回目の学校運営協議会での意見交換が終わって、これから2回目に入っていく。そしてまちづくりの人たちや様々な人々を巻き込んでいくことになるかと思う。今、目の前にどのような先延ばしできない問題があって、子どもたちの望ましい教育環境を第一に考えると、我が校区では何が課題であるかをみんなで知恵を出し合える進め方が大事ではないかと思う。一般的に総論賛成、各論反対ということがよく言われる。でも各論のない総論はあり得ないし、総論のない各論もないだろうと思う。総論を支えているのは各論だし、各論に一本筋を通しているのが総論だと思う。進め方によって総論賛成各論反対になってしまうことが多々あると感じているだけに、将来の子どもたちのために今こういうことを考えているということが、多くの市民に広がると良いと思っている。本日はありがとうございました。